団体名			かぬまっ子育成委員会（栃木県鹿沼市）
団体の概要	活動開始年		西暦　2001 年　 9 月　活動開始
	メンバー	人数	＜事務局スタッフ数＞　1 名　 ＜ボランティア数＞　 20 名
		構成	主婦、中高年
	予算規模		平成 13 年度概算 ･収入　なし ･支出　なし　（材料費などは参加者が負担するので、予算はかからない）
団体の目的			鹿沼の子ども達が未来に向かって夢を持てるような遊びや学びの場において、支援及び協力をし、併せて会員相互の研鑽と親睦を図ることを目的とする。

①学校と連携しているボランティア活動の概要

体験学習の支援として、授業の中で下記の指導を行っている。

（1）手作りまんじゅう

（2）モヘアの毛糸でネコ、犬作り

（3）伝承あそび

市内の中学校から依頼があって、不登校の生徒のためのクラスの授業で、モヘア毛糸の犬作りを指導した。この団体のことを知った先生が、教育委員会に問い合わせたところ、メンバーのひとりが市の教育委員会の職員で、事務局も兼ねていたことから、すぐに話がつながった。

②ボランティア活動を立ち上げた経緯

鹿沼市と教育委員会が主催した「子供体験講座のためのボランティアスタッフ養成講座」を受講した８名で立ち上げた。完全学校 5 日制が実施されることから、毎週土曜日に市民情報センターなどで、教育委員会主催の子どもの体験講座「かぬまっ子広場」を開催していた。

その後、学校から「学校の授業で教えてもらいたい」という話がもちかけられ、会員の中に協力できる人材がいたので、実施するようになった。学校の授業で行うことに対して、ボランティア側が不安を抱いていたが、１人ではなく、複数（４人）で参加することでスムーズに学校での活動が出来た。このクラスでは、やりたいことを生徒自身が話合って決めているので、みんなが熱心だった。

ボランティアは、「子供体験講座のためのボランティアスタッフ養成講座」修了生の中から、かぬまっ子育成委員会で活動できる人に登録してもらうので、最近は活動できる人が増えてきた。今後はもっと活動の場や幅を広げたいと考えている。

③学校と連携を行う際の工夫

＜工夫①：子どもと一緒に楽しんで、やりがいを感じている＞

まず、学校で先生と生徒が何をやってみたいかを話し合ってから依頼がくるため、生徒も生き生きと体験活動が出来ている。ボランティアも生徒と一緒に活動を楽しんでいる。ボランティアは今の学校の様子がわかり、子ども達が一生懸命やっている姿にやりがいを感じている。

＜工夫②：教育委員会の職員が団体の事務局兼コーディネーター役＞

団体の事務局スタッフの一人が、市の教育委員会の職員であったことから、学校と団体をつなぐコーディネーターの役割を担い、連携をスムーズに進めていくことができた。

＜学校での活動の様子＞

（事務局スタッフによるレポート、スタッフと関係者へのヒアリング調査、団体資料より作成）

＜この事例のポイント＞

団体の立ちあがりから現在に至る活動は、教育委員会の協力とその後の連携によって行われているので、学校としても安心して依頼できたのであろう。もちろん、団体として、これまでの活動実績を認められた結果でもある。学校という新たな活動の場が広がり、子どもと一緒に楽しんで活動して、それにやりがいを感じていることが、ボランティアの活力になっている。

ボランティア団体が学校の授業に協力するということは、まだ、全国的にはあまり多くない。この事例では、学校が積極的に外部の人にも協力を仰いでいることがわかる。授業はチーム・ティーチングという形で教師も参加をする。

学校とボランティア団体が連携する場合には、企画の段階からボランティアも参加することが重要である。双方が何を求めていて、そして、何ができるのかを確認しあうという相互理解を深めることが成功のポイントである。